

原油価格の見通し

～原油価格は横違い圏内で推移する見込み～

1. 価格動向

97 ドル台と 4 ヶ月振りの高値

原油価格 (WTI 期近物) は、米財政不安の後退や地政学リスクの高まりを受けて上昇し、4 ヶ月振りの高値圏で推移している (第 1 図)。

1 月 1 日、米下院が「財政の崖」回避に向けた法案を可決したことを受けて、原油価格は昨年 12 月中の 85～90 ドルのレンジを抜けて 93 ドル台へ上昇した。その後も堅調な米経済指標や中東・アフリカ地域の地政学リスクの高まりから上昇し、1 月末には 97 ドル台と 4 ヶ月振りの高値となった。

2 月に入り、石油輸出国機構 (OPEC) や国際エネルギー機関 (IEA) の原油需要見通し、米国の経済指標や原油在庫統計に反応しながら、原油価格は 95～97 ドル台と狭いレンジで推移している。

投機筋の買い越し額は過去最高水準

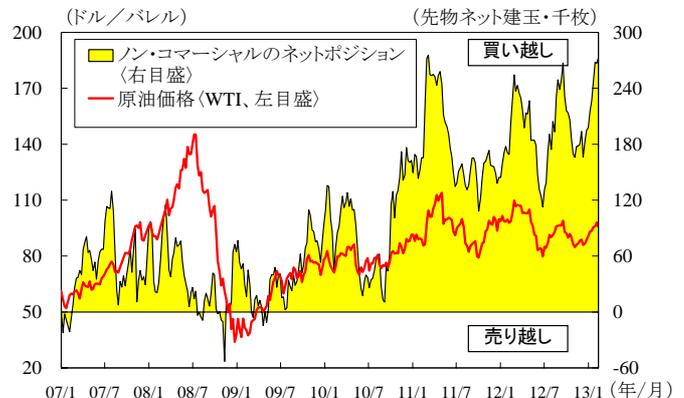
原油先物市場における投機筋の買い越し額をみると、日銀の追加金融緩和期待、米財政不安の後退等を受けて投資家のリスク選好姿勢が強まったことから、昨年 12 月半ば以降増加傾向にあり、足元では過去最高水準に達している (第 2 図)。

第1図: 原油価格 (WTI期近物) の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: 原油先物市場の投機筋ポジション



(注) ノン・コマーシャルとは、原油生産や精製に従事しない業者のこと。

1枚=1,000バレル。

(資料) 米商品先物取引委員会、ニューヨークマーカンタイル取引所資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 需要・供給動向

2012年は4年振りの供給超過

2012年の世界の原油需給バランスは、4年振りの供給超過（＝在庫積み増し）となった（第3図）。欧米の原油需要が減少したが、OPECと非OPECともに供給が増加したためである。

世界の原油需要は伸び悩み

IEAによれば、2012年は欧米の原油需要が減少したものの、日本の火力発電用需要の増加とアジアの底固い需要により、世界の原油需要は前年比+1.1%と昨年（同+0.9%）をわずかに上回った。今年については、世界景気は緩やかな回復傾向を辿ると見込まれるが、日本の原油需要は前年の反動からマイナスの伸びとなり、欧州景気も引き続き低迷することから、世界の原油需要は伸び悩むとみられている。

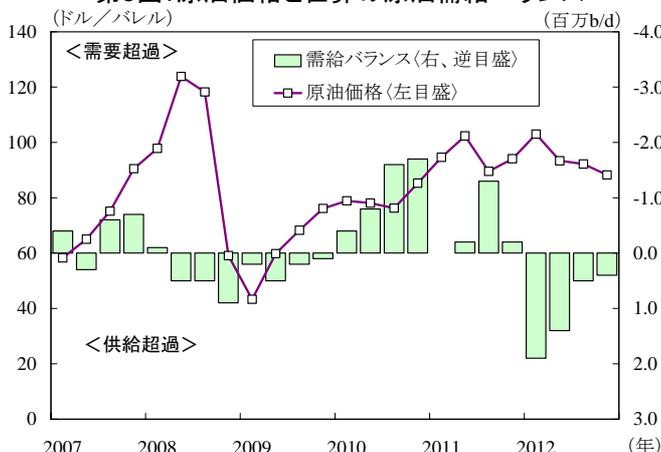
イラン減産分を他のOPEC加盟国がカバー

供給についてみると、2012年のOPECの産油量は前年から増加した。欧米による経済制裁強化の影響からイランの産油量が減少したが、サウジアラビア等の湾岸産油国が高水準の生産を維持したのに加え、イラクとリビアの生産が回復したことから（第4図）、イラン減産の影響は相殺された。しかしながら、サウジアラビアは11月以降、大幅減産に踏み切っている。国内外の需要減少に対応したものといわれているが、米国のシェールオイル増産を考慮し、世界の原油需給バランスを過度に緩めない狙いも否定できない。

シェールオイル増産により米国の産油量が増加

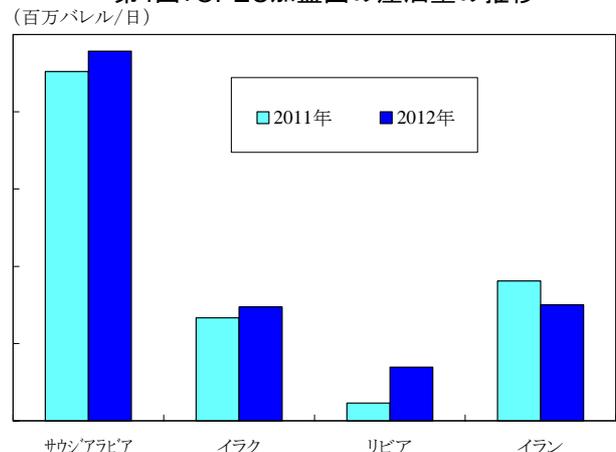
非OPECの産油量についてみると、生産量減少が続く北海油田を抱える英国とノルウェー、内戦が激化しているシリアの産油量が大きく減少したが、米国の産油量が大幅増加した。この結果、2012年の非OPECの産油量は増加した。2013年についても、シェールオイル増産により米国の産油量増加が見込まれており、産油国としての存在感を一段と高めることになる。

第3図：原油価格と世界の原油需給バランス



(資料) IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第4図：OPEC加盟国の産油量の推移



(資料) IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 価格の見通し

原油価格は四半期平均で94～97ドル台の推移が見込まれる

世界景気は緩やかな回復傾向を辿ると見込まれるが、今年に入り米国の「財政の崖」が回避されたほか、中国の景気減速懸念も和らいでおり、需要面の支援材料となっている。こうした中、世界的な金融緩和を受けて原油市場に資金が流入しやすい環境にある。供給面でも、中東・アフリカ諸国の情勢緊迫化は当面続くとみられ、原油価格の押し上げ要因となろう。

米シェールオイル増産の原油価格への影響が注目されるが、世界全体でみた供給超過拡大を避けるために OPEC が減産する可能性があり、米増産による価格下押し圧力は軽減されると見込まれる。

他方、欧州債務問題は燻り続けるとみられ、原油価格の上値を抑制するとみられる。原油価格は四半期平均で94～97ドル台と横這い圏内での推移が予想される。

(篠原 令子)

原油価格の見通し

| | WTI先物 (ドル/バレル) | 前年同期比 (%) |
|-------|-------------------|--------------|
| 12/1Q | 103.0 | 8.9% |
| 12/2Q | 93.4 | ▲8.8% |
| 12/3Q | 92.2 | 3.0% |
| 12/4Q | 88.2 | ▲6.2% |
| 13/1Q | 94 | ▲8.8% |
| 13/2Q | 94 | 0.7% |
| 13/3Q | 97 | 5.2% |
| 13/4Q | 96 | 8.8% |
| 2011年 | 95.1 | 19.5% |
| 2012年 | 94.2 | ▲1.0% |
| 2013年 | 95 | 1.1% |

見通し ↓

(注) 期中平均価格

照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 (次長 伊達)

TEL:03-3240-3204 E-mail:nobuo_date@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。